

博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 成人看護学分野

科目コード：240003

## がん看護学演習 I Oncology Nursing I

| 担当教員          | 牧野智恵、北山幸枝、坂下智珠子、松井優子、北本順子、村上真由美  |     |    |       |       |
|---------------|--|-----|----|-------|-------|
| 実務経験          |  |     |    |       |       |
| 開講年次          | 1年次前期  | 単位数 | 2  | 授業形態  | 講義・演習 |
| 必修・選択         | 選択   | 時間数 | 30 |       |       |
| Keywords      | 薬物療法、症状マネジメント  |     |    |       |       |
| 学習目的・目標       | <p>学習目的：がん薬物療法と療養過程のマネジメントについて学び、Evidence based practice のために必要な知識を習得する。学習目標：1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。<br/>2. がん薬物療法中の患者へのEvidence based practice のために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。<br/>3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。</p> |     |    |       |       |
| 授業計画・内容       |  |     |    |       |       |
| 回             | 内容   |     |    | 授業方法  | 担当    |
| 1-2           | がん薬物療法と予防メカニズム   |     |    | 講義・討議 | 牧野    |
| 3-4           | 消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネジメント<br>大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析<br><br>① 大腸がん・胃がん・肺がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する<br><br>② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、多職種との協働のあり方について          |     |    | 講義・討議 | 坂下・牧野 |
| 5-6           | 造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネジメント<br>① 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する<br><br>② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について   |     |    | 講義・討議 | 松井・牧野 |
| 7-8           | 乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネジメント<br>① 乳がん・生殖器系がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する<br><br>② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について  |     |    | 講義・討議 | 村上・牧野 |
| 9-10          | がん化学療法を受ける患者への粘膜および創の管理<br>・薬物療法における粘膜障害の特徴およびそのケアについて   |     |    | 討議    | 北山・牧野 |
| 10-13         | 化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について   |     |    | 講義    | 北本・牧野 |
| 14-15         | がん化学療法を受ける患者へのマネジメント<br>① 学生のこれまでの看護実践の中から、化学療法を受ける患者・家族への困難な事例について討議し、マネジメントについて理解を深める  |     |    | 討議    | 牧野    |
| 教科書           |  |     |    |       |       |
| 参考図書等         | ・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年・西条長廣監修；EBM<br>がん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2015年・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護<br>コアカリキュラム、医学書院、2008年  |     |    |       |       |
| 評価指標          | 各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。  |     |    |       |       |
| 関連科目          | がん看護学演習 II   |     |    |       |       |
| 教員から学生へのメッセージ | ① 事前に配布される事例あるいは講師からの事前課題については、Evidence based practiceのためのステップに沿ってあらかじめ分析しておくこと。② 自らのケア経験も交えて積極的にディスカッションしましょう。  |     |    |       |       |